日本キリスト教会　広島長東教会だより

ミニバラ No.27

〒731-0135　広島市安佐南区長東 3-32-16

TEL/FAX 082-238-3459

2010 年 2 月発行

ベツレヘムの星

彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。　（マタイによる福音書２章 10～11 節）

皆さんはクリスマスツリーの一番上にひときわ大きな星が置かれているのに目をとめたことがあるでしょう。この星はクリスマスのお祝いには欠かせないものとして、いまも世界中のクリスマスツリーのいただきにきらきら輝いています。これはクリスマス物語の中でもひときわ印象的な出来事の主人公で、ベツレヘムの星と呼ばれています。

この星をたよりに東方から旅をして来たのはみな占星術の学者たちで、星によって世の中の動きや人々の運命を占っていた人たちでした。彼らにとって夜空に輝く星はみな神でありました。人間の運命はすべて星によって定められていましたから、もしも恐ろしい運命が待っていることがわかったとしても、そこから逃れることなど出来ません。占星術とはこのように、定められた運命に従って生きることをひたすらに教えるものでありました。

そんなある夜のこと、学者たちは夜空に異変が起きたことを発見しました。突然、新しい星が出現したのです。それはユダヤ人の王の星で、新しい王が生まれたことを示していました。学者たちはこの新しい王が、あのアレクサンダー大王のように、歴史に名を残す王になると信じました。そこで、いち早くお祝いにかけつけて、最大限の敬意を表そうとしたのです。

長い苦しい旅を経て、やっとユダヤに着いた学者たちは、まずエルサレムの都を目指しました。この都の豪華な宮殿の中こそ、新しい王にふさわしい場所だと考えたからですが、しかし、そこではありませんでした。ヘロデ王に会い、ベツレヘムのことを教えられてエルサレムを離れると、再び星が現れました。そうしてこの星は、彼らが思ってもみなかった、粗末な家の貧しい家族のところに導いていったのです。

そこは普通なら学者たちが足を踏み入れようとはしない場所でした。もしも彼らが「なんだ貧乏人の赤ん坊か」としか思えなかったとしたら落胆して、自分の国に帰ってしまったことでしょう。けれどもその場所に光が輝いていました。ベツレヘムの星は暗い場所を明るく照らしだしていました。この光が指し示しているものを認めた時、学者たちは喜びにあふれました。それは彼らがそれまで全く知らなかった本当の神の姿でした。

こうして学者たちは幼な子の前にひれ伏して拝んだのです。ここにいるのはユダヤ人の王どころの方ではありません。世界の救い主であられる方です。しかしその方は貧しい人々の間にお生まれになりました。

神のいます天と貧しい、普通の人間の住む地はかけはなれてはいません。神は天と地をつなぎ、苦しみと悩みの中にある人類を救うために、み子イエス・キリストをその場所に送って下さったのです。

学者たちが自分の目の前で起こった出来事を理解した時、世界は全く違ったものになっていました。「これまで自分たちが信じてきたものは間違いだった。本当の神は運命によって人を縛ったりはしない。あまたの星よりも大きな方、神はただ一人。神は自分たちが考えていたよりずっとずっと偉大であられた」。

彼らが始めて知った天は明るく輝いていました。そして地上も祝福されていました。イエス様の誕生によって、神が愛であることを知った学者たちは感動し、胸のふるえるような思いをいだいて、自分の国に帰っていったのです。彼らが通っていったのは、この世界を取り囲む闇の力に翻弄される道ではなく、神の祝福の中にある道でした。

（2009 年 12 月 24 日の讃美礼拝説教より）

牧師　井上　豊